

難民サポーター、寄付者のみなさま

2004年のご支援ありがとうございました。ここに、この7月からの報告をさせていただきます。年次会計報告は、当協会の会計年度に合わせて、来年7月以降にお送りします。

今後どうぞよろしくお願い致します！

難民サポーター！
緊急ファンド

難民サポーター！
緊急ファンド

2004
(中間)

緊急ファンドが必要なケースが急増

□ 新規、難民申請希望者からの相談 11名 □

10月後半から11月前半にかけて、難民申請を行いたいという難民申請希望者が集中し、事務所に訪れた方は11名となりました。難民支援協会始まって以来の人数です。中でもお金がなかったため、数日間野宿をしていた方など、その日泊まる所がなく、来日後まだ間もない状態の”緊急ケース”は8名にも上りました。アフリカ出身の難民が多く、この中には10月に大統領選挙があり、混乱が続くカメルーン出身の方も複数見られました。

これらのケースには、難民申請手続きの説明と申請書記入の手伝いなどを行ったほか、できるだけ早く申請を済ませて政府から申請中の支援を受けられるように入国管理局などへの同行を行います。同時に必要に応じて支援を受けられるまでの間、安価な宿泊先を次々に問い合わせ、泊まれる場所を確保し、『緊急ファンド』からの最低限の生活費と宿泊費を手配しました。

緊急ケースは突然やってくるため、インターンを含め個別支援担当者だけでなく、外にも飛び回っている個別支援担当メンバーを支えるため、他の職員が電話にでるなど総出で対応に追われています。

またこの間、空港から入国が許可されず、庇護希望を訴える方からの問い合わせが複数ありました。また大阪の茨木市にある入管施設（西日本入国管理センター）に収容されている方からの電話による問い合わせが増え、15件に達しています。



事務所の入口に置かれた難民の荷物

緊急ファンド：

日本で生活していくために必要なお金に困っている難民への貸し出し・支給を目的として、2000年12月に設立した基金です。

会計中間報告

10月末から11月にかけて執行した緊急ファンドは、住む家がなく、生活費が必要なケースに対し計11万円を執行しました。

7月～11月中旬までの合計は46万9340円です。

年次会計の詳細報告は7月発行号にまとめてご報告します。

支援の事例

難民申請しようにも情報を得られず、右も左も分からないまま、野宿を強いられている入国直後の方からの相談が最近増えています。その殆どが、日本には誰一人頼る人もなく、身ひとつで逃げてきた人々です。目指す国の選択肢はなく、たまたまビザが取得できたのが日本だったなど、日本を積極的に選んだ人は非常に稀です。

先日相談に来たアフリカのある国から来た青年もそうでした。自らが属する民族に対する迫害から逃れるため、隣国に逃れ、難民キャンプで生活しました。その後、その国においても反政府グループに属していると疑われ、身の危険を感じて日本に向け出国したのです。

「池袋にいる」という一本の電話を受け、スタッフが池袋まで迎えに行きました。約10日前に日本に着きましたが、国から持参した現金もわずかであったため、空港周辺で野宿していました。ようやくインターネットで難民支援協会の情報を得ることができたようです。

難民申請手続きに向かう難民と
インターンスタッフ
(本文とは関係ありません。)

所持金の残額は300円程度で、勿論その晩、寝る場所ありません。私たちが手配したユースホステル代、食費、交通費として6,000円を支給しました。彼が国から持ってきた荷物はお財布が入る位の小さなバッグだけ。着替えの洋服すら一枚も持っていませんでした。

現在は、難民申請者用のシェルターに居住し、難民申請のインタビューを待っています。

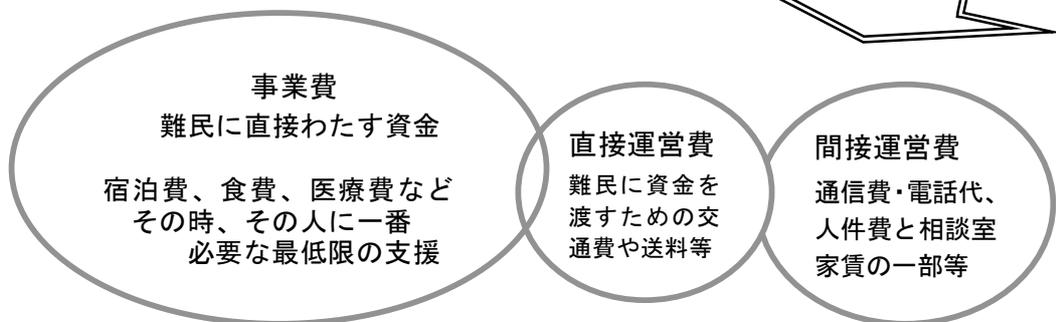
(新島彩子：難民アドバイザー)



サポーター費&緊急ファンド寄付金の流れ

みなさまからお預かりした資金の用途は下記のようになっています。

みなさまの
お金



特定非営利活動法人 難民支援協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 2-19 銀鈴会館 406号室

Tel:03-5225-2135 Fax:03-5225-2136 info@refugee.or.jp

<http://www.refugee.or.jp/>